

# 日本気象学会 2020 年度秋季大会 協賛企業・団体等一覧

今大会の開催にあたり，以下の企業・団体からご協賛を頂きました（2020年9月23日現在；50 音順）．厚く御礼申し上げます．

**ANEOS株式会社**

**英弘精機株式会社**

**株式会社ニューテック**

（五十音順）

# 日本気象学会 2020 年度秋季大会

## (オンライン開催)

2020 年度秋季大会は、新型コロナウイルス感染症対策のため、インターネットを介したオンライン開催とします。

会期：2020 年 10 月 25 日（日）～10 月 31 日（土）

大会担当機関：関西支部，講演企画委員会，電子情報委員会

大会委員長：木俣 昌久（大阪管区気象台）

当日の連絡先：準備中。確定後大会ページ (<https://www.metsoc.jp/meetings/2020a>) にて公開予定。

### 研究発表および聴講：

講演者によって大会ウェブページにアップロードされた講演資料を閲覧し、大会ウェブページ上で質疑を行うオンデマンド方式で実施します。講演や議論には学会の G Suite に含まれる Meet や Chat を使用することもできます。また、上記に加えて、ウェブ会議システム（Zoom）を用いたリアルタイムの口頭発表も行います。

### 気象学会 G Suite アカウント

本大会では、学会の G Suite アカウントを使用します。学会 G Suite アカウントをお持ちでない方は、学会会員サイトから G Suite アカウント申請をお願いします。

<https://www.metsoc.or.jp/membersite/>

会員でない方の参加には、Google アカウントが必要です。Google アカウントを既にお持ちの方は、それを使うことができます。

### オンライン大会ウェブページ（随時更新）

大会プログラムの他、講演資料のアップロード、講演・聴講方法についての説明をご覧いただけます。参加の際には、必ずご覧いただくようお願いいたします。

<https://sites.google.com/metsoc.or.jp/atm2020/home>

ご質問等おありの方は、下記メールアドレスか、問い合わせフォームよりご連絡ください。

メールアドレス [kouenkikaku2020a@mri-jma.go.jp](mailto:kouenkikaku2020a@mri-jma.go.jp)

問い合わせフォーム <https://sites.google.com/metsoc.or.jp/atm2020/contact>

# 大会行事予定（オンライン開催）

( ) 内は講演番号と講演数

オンデマンド講演は大会ページ (<https://sites.google.com/metsoc.or.jp/atm2020/>) で閲覧できます。

オンライン口頭発表には Zoom を使用します。詳細は大会ページで確認ください。

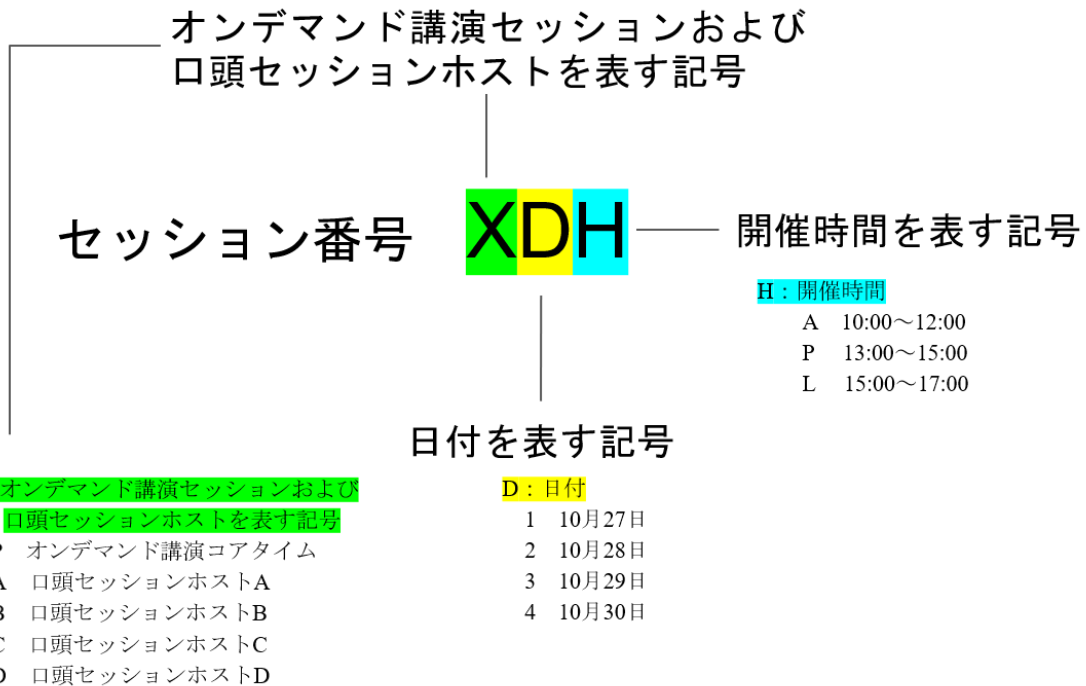
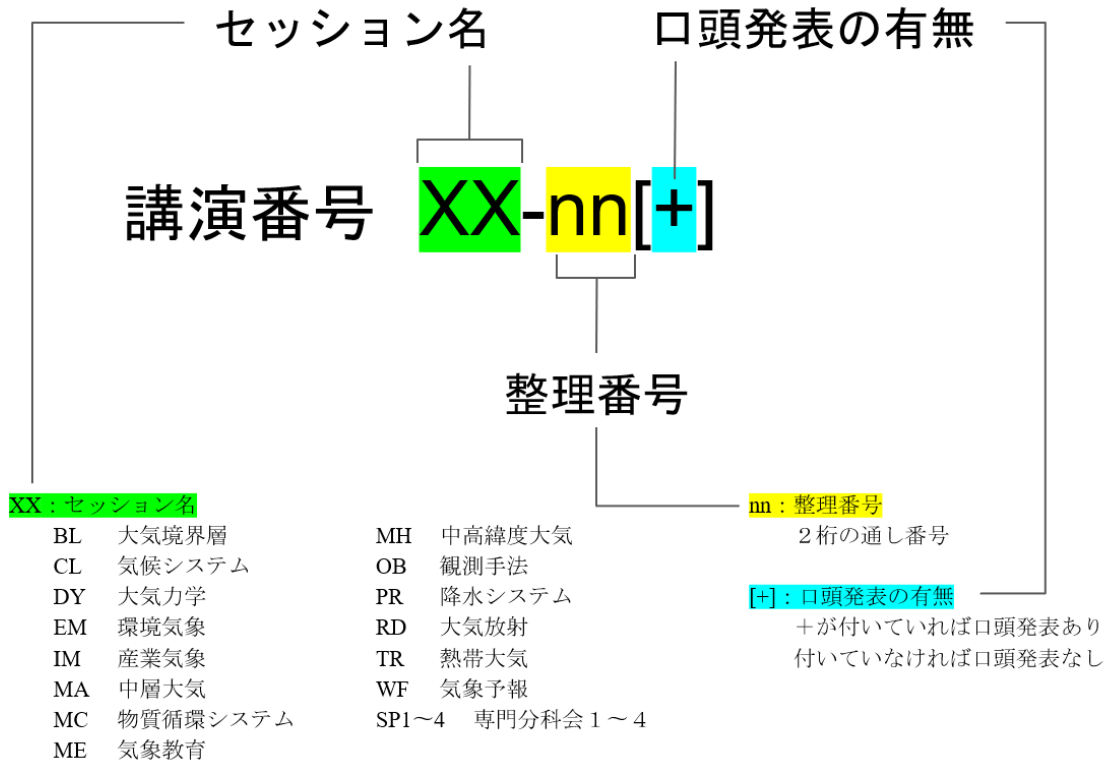
		ホストA	ホストB	ホストC	ホストD
10月25日 (日)	09:00～ 12:00	オンデマンド講演			
	13:00～ 17:00	オンデマンド講演			
10月26日 (月)	09:00～ 12:00	オンデマンド講演			
	13:00～ 17:00	オンデマンド講演			
10月27日 (火)	09:00～ 09:20	理事長挨拶・大会委員長挨拶 (ホストA)			
	09:20～ 12:00	堀内賞・正野賞・山本賞・小倉奨励賞授賞式 (ホストA) 堀内賞・正野賞・山本賞受賞者記念講演 (ホストA)			
	13:00～ 15:00	PIP オンデマンド講演コアタイム (48) 環境気象(EM), 観測手法(OB), 気候システム(CL)のうち奇数番号 専門分科会4「気象情報高度化時代の「わかる」工夫」(SP4)の全講演			
	15:00～ 17:00	学会賞, 藤原賞, 岸保・立平賞受賞者記念講演 (ホストA)			
10月28日 (水)	10:00～ 12:00	P2A オンデマンド講演コアタイム (58) 環境気象(EM), 観測手法(OB), 気候システム(CL)のうち偶数番号 専門分科会2「霧研究の現状と展望」(SP2)の全講演			
	13:00～ 16:00	A2P 専門分科会2 「霧研究の現状と展望」 (SP2, 13)	B2P 熱帯大気 (TR, 10)	C2P 気象予報 (WF, 8) 物質循環システム (MC, 4)	D2P 降水システム (PR, 10)
10月29日 (木)	09:00～ 12:00	A3A 専門分科会1 「宇宙からのエアロゾル・雲・降水観測の未来」 (SP1, 8)	B3A 環境気象 (EM, 3) 観測手法 (OB, 7)	C3A 気候システム (CL, 10)	D3A 降水システム (PR, 5) 大気境界層 (BL, 5)
	13:00～ 15:00	P3P オンデマンド講演コアタイム (62) 気象教育(ME), 気象予報(WF), 降水システム(PR)のうち奇数番号 専門分科会1「宇宙からのエアロゾル・雲・降水観測の未来」(SP1)の全講演			
	15:00～ 17:00	P3L オンデマンド講演コアタイム (48) 大気境界層(BL), 大気放射(RD), 大気力学(DY), 中高緯度大気(MH), 中層大気(MA), 熱帯大気(TR), 物質循環システム(MC), 産業気象(IM)のうち奇数番号			
10月30日 (金)	09:00～ 12:00	A4A 専門分科会3 「静止軌道からの地球 環境観測」 (SP3, 9)	B4A 熱帯大気 (TR, 8) 大気放射 (RD, 2)	C4A 気候システム (CL, 9) 気象教育 (ME, 2)	D4A 大気力学 (DY, 2) 中高緯度大気 (MH, 5) 中層大気 (MA, 3)
	13:00～ 15:00	P4P オンデマンド講演コアタイム (51) 気象教育(ME), 気象予報(WF), 降水システム(PR)のうち偶数番号 専門分科会3「静止軌道からの地球環境観測」(SP3)の全講演			
	15:00～ 17:00	P4L オンデマンド講演コアタイム (42) 大気境界層(BL), 大気放射(RD), 大気力学(DY), 中高緯度大気(MH), 中層大気(MA), 熱帯大気(TR), 物質循環システム(MC)のうち偶数番号			
10月31日 (土)	09:00～ 12:00	オンデマンド講演			
	13:00～ 17:00	オンデマンド講演			

発表件数：309 件（専門分科会 47，一般発表 262）

当大会予稿集に掲載された著作物については、以下の規程「日本気象学会の刊行物に掲載された著作物の利用について ([https://www.metsoc.jp/teikan/MSJ\\_kitei\\_copyrighpolicy.pdf](https://www.metsoc.jp/teikan/MSJ_kitei_copyrighpolicy.pdf))」に準じます。

本プログラムの記載内容に関する問い合わせは、〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1 気象研究所内 講演企画委員会 (E-mail: kouenrikaku2020a@mri-jma.go.jp) まで

# 講演番号とセッション番号の見方



# 講演の方法

大会ウェブサイトにも講演方法の詳細を掲載しています。必ずご覧いただくようお願いいたします。

<https://sites.google.com/metsoc.or.jp/atm2020/instruction>

## オンデマンド講演

- ・ 大会ウェブサイト上に掲載された発表資料を閲覧し、発表資料にコメントを残すことで質疑応答を行います。
- ・ 講演者は G Suite の Meet や Chat を使って、オンラインの質疑応答の場を設定することも可能です。
- ・ 気象学会会員は、気象学会が発行する G Suite アカウントが必要になります。
- ・ 気象学会非会員は、通常の Google アカウントが必要になります。

## 口頭発表

- ・ Zoom を使用したウェブ会議システムによってオンライン上で口頭発表を行います。
- ・ 講演 1 件あたりの持ち時間は 14 分 (講演 11 分・質疑 3 分) です。

## 専門分科会

- ・ オンデマンド講演に加えて、「宇宙からのエアロゾル・雲・降水観測の未来」、「霧研究の現状と展望」、「静止軌道からの地球環境観測」については口頭発表を行います。発表時間等の詳細については世話人からの指示に従ってください。

## 注意事項

- ・ 講演にあたり、予め以下の点をご了承ください。
- ・ インターネット接続環境、オンデマンド講演・口頭発表に必要なパソコン、マイク、スピーカー等の機材は各自で準備して下さい。
- ・ 突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応をとることがあります。トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようお願いいたします。

## お知らせ

(領収証等の送付について)

参加者には、事前に領収証を電子媒体 (PDF) で送付します。紙媒体の領収書が必要な場合は、講演企画委員会 (kouenkikaku2020a@mri-jma.go.jp) までご連絡ください。

(電子版予稿集について)

参加者には、領収書と合わせて「講演予稿集ダウンロード用パスワード」を事前送付します。

## 専門分科会の概要紹介

### 宇宙からのエアロゾル・雲・降水観測の未来

オンライン口頭発表日時：

2020 年 10 月 29 日 (木) (大会第 3 日) 9:00~12:00

オンデマンド講演コアタイム日時：

2020 年 10 月 29 日 (木) (大会第 3 日) 13:00~15:00

趣旨：大気科学において欠かせない観測となった衛星観測は、近年では様々な衛星のデータを組み合わせた研究が盛んになっている。エアロゾル・雲・降水については、必ずしも衛星ミッション設計に分野横断的な視点が生かされてこなかったが、地球温暖化等の課題に対しては、それらを総合的に考えることが必須である。米国の Decadal Survey でも大気科学分野の重要課題として Aerosols and Clouds, Convection and Precipitation (ACCP) が挙げられ、NASA では 2028 年頃の衛星打ち上げを目指した検討が行われている。一方、日本でも高精度降水マップやエアロゾル同化プロダクトなどが社会に広く利

用され重要なインフラとなっている。本専門分科会では、エアロゾル・雲・降水の研究者が集い、最新の観測とモデリングの研究成果を共有し、この分野の将来の衛星観測について議論を行う。

世話人：高橋暢宏 (名古屋大学宇宙地球環境研究所)、岡本創 (九州大学応用力学研究所)、鈴木健太郎 (東京大学大気海洋研究所)、高薮縁 (東京大学大気海洋研究所)、西澤智明 (国立環境研究所)、樋口篤志 (千葉大学環境リモートセンシング研究センター)、増永浩彦 (名古屋大学宇宙地球環境研究所)、山地萌果 (宇宙航空研究開発機構)

### 霧研究の現状と展望

オンライン口頭発表日時：

2020 年 10 月 28 日 (水) (大会第 2 日) 13:00~16:00

オンデマンド講演コアタイム日時：

2020 年 10 月 28 日 (水) (大会第 2 日) 10:00~12:00

**趣旨：**古くから霧は、人の生活や環境問題と密接に関わっており、気象観測や数値シミュレーションからアプローチされた研究が多く存在する。地球温暖化などの影響で近年は霧の出現頻度も全国的に減少している報告がある一方で、たとえば航空・船舶・自動車の濃霧による交通障害は今でも突発的に出現し、問題となる。霧は発生メカニズムの違いによって、放射霧・移流霧・蒸気霧・滑昇霧・前線霧などに分類されるが、それらの物理的または化学的特徴が長年にわたり調査されてきた。これまで気象学会では、1998年度春季大会で霧研究に関する専門分科会が開かれたが、20年以上が経過し、霧に関する新たな知見と課題の共有が必要と考える。本分科会では、日本および世界の陸上や海上を覆う霧を、現地観測・データ解析・数値シミュレーションなど様々な手法により物理学、化学、さらにはエアロゾルや境界面との相互作用を含めた多様な学術分野の情報交流を推進することを目指す。

**世話人：**大橋唯太（岡山理科大学）、伊藤純至（東北大学）、堅田元喜（茨城大学）、重田祥範（鳥取環境大学）、菅原広史（防衛大学校）、名越利幸（岩手大学）

### 静止軌道からの地球環境観測

**オンライン口頭発表日時：**

2020年10月30日（金）（大会第3日）9:00～12:00

**オンデマンド講演コアタイム日時：**

2020年10月30日（金）（大会第3日）13:00～15:00

**趣旨：**約36,000km上空で地球の自転と同期して回転する軌道は、赤道上に見かけ上静止しているように見える。地球からの距離が遠いという欠点があるが、同一箇所を連続的に計測できる利点を有するため、静止軌道は「ひまわり」やGOESシリーズ等、静止気象衛星の観測位置として定着している。近年の静止気象衛星の機能強化に加えセンシング技術の進化も相まって、静止軌道から地球環境を観測する意義がこれまで以上に高まっている。本分科会では静止気象衛星（イメージャ）に限らず、静止軌道からの地球環境計測について、

会員からの自由なアイデアの提示を通じ、静止軌道からの観測の意義について改めて議論したい。

**世話人：**樋口篤志（千葉大学環境リモートセンシング研究センター）、今須良一（東京大学大気海洋研究所）、牛尾知雄（大阪大学工学研究科）、佐藤正樹（東京大学大気海洋研究所）、高橋暢宏（名古屋大学宇宙地球環境研究所）、高藪縁（東京大学大気海洋研究所）、別所康太郎（気象庁観測部気象衛星課）、本多嘉明（千葉大学環境リモートセンシング研究センター）、中島正勝（宇宙航空研究開発機構 宇宙利用統括付き）、中島孝（東海大学情報技術センター）

### 気象情報高度化時代の「わかる」工夫

**オンデマンド講演コアタイム日時：**

2020年10月27日（火）（大会第1日）13:00～15:00

**趣旨：**観測技術の精度向上・緻密化、計算処理の高速化、通信および保存の大容量化はとどまるところを知らず、今なお現在加速中である。

一方どんなに緻密で充実した気象情報が流通しても、それを受け取った人間が迅速に認識して的確に現状把握し、適切な行動を起こせなければ意味は無い。

人間の五感と理解度、さらには判断力や行動力の現実的な限界値を意識した、気象情報の有効通信情報量の最大化および小型軽量化とスピードアップ等について、あらゆる学術方面からの研究知見の集約と新規構想の議論を展開致したい。

**世話人：**上田博康（（一社）日本気象予報士会）、太田佳似（（一社）日本気象予報士会）、岡田登志恵（（一社）日本気象予報士会）、岡留健二（（一社）日本気象予報士会）、川邊昭治（（一社）日本気象予報士会）、楠田雅紀（（一社）日本気象予報士会）、佐藤知生（（一社）日本気象予報士会）、實本正樹（（一社）日本気象予報士会）、難波良彰（（一社）日本気象予報士会）、平松信昭（（一社）日本気象予報士会）

---

## 研究会のお知らせ

大会期間中に研究会が予定されています。興味のある方はご自由にご参加下さい。

### 第8回気象学史研究会

**日時：**2020年10月29日（木）18:00～20:00

オンライン（リアルタイム）開催

**テーマ：**「明治創設期の測候所と気象学：期待と役割—旧測候所保存資料から探る」

**趣旨：**日本の近代気象事業は明治初年に創始され、まもなく150年になろうとしている。その草創期において、気象学が如何なるものと考えられていたのか、気象事業や各地測候所に何が期待されたのか、それらに対しどのような活動が行われたのかを理解

することは、今日に至る気象事業発展の歴史と方向性、さらにはその将来を展望するためにも重要である。このため各種資料に記録された当時の気象事業の諸活動やそれらをめぐる人々の発言を知ることが必要となる。

本研究会では、1879（明治12）年、初めて県営として創設された広島県広島測候所（現・広島地方気象台）の旧所蔵資料を元にして近代気象事業創設期の気象学・地方測候所に課せられた役割・かけられた期待を探求した研究が紹介される。また、同資料を現在所蔵する広島市江波山気象館の

活動とその所蔵資料概要が紹介される。草創期の気象事業展開の模索の中で、その方向性が形成されていく過程を議論する。

講演要旨を気象学史研究連絡会ウェブサイトに掲載いたします。

#### プログラム:

「広島市江波山気象館所蔵の気象学史的資料」

遠藤正智（広島市江波山気象館）

「草創期における気象観測所の役割と期待：広島測候所を事例に」

宮川卓也（広島修道大学）

司会：財城真寿美（成蹊大学）

日本気象学会員であるか、秋季大会に参加するかどうかに関わらず、関心のある方はどなたでもご参加いただけます。参加費は無料です。参加を希望される方は事前申し込みをお願いいたします。参加申し込み方法等は気象学史研究連絡会ウェブサイトに掲載いたします。

<https://sites.google.com/site/meteorolhistoryjp/>

連絡先：山本哲（研究連絡会世話人・元気象研究所）  
気象学史研究連絡会ウェブサイトの問い合わせフォームをご利用ください。

<https://sites.google.com/site/meteorolhistoryjp/>

---

## 保育施設の利用について

気象学会では、大会期間中の保育施設利用費用の一部補助を行います。

学会からの保育補助は下記の保育支援ガイドラインに則ります。

[https://www.metsoc.jp/jinzai/files/childcare\\_support\\_guideline.pdf](https://www.metsoc.jp/jinzai/files/childcare_support_guideline.pdf)

保育施設への申込は直接利用者個人で行ってください。補助の申請は事前に気象学会事務局・下記担当者

へ10月22日（木）までにご連絡下さい。

保育施設の利用を検討されている方は、お気軽に担当者にお問い合わせください。

連絡先 気象学会事務局

E-mail: [chief@metsoc.jp](mailto:chief@metsoc.jp)

TEL: 03-3216-4403

---

## 2021 年度春季大会の予告

2021 年度春季大会は、2021 年 5 月 18 日（火）～5 月 21 日（金）に筑波大学で開催される予定です。大会告示は「天気」12 月号に掲載予定です。なお、春季大会の講演申込締切は 2021 年 2 月頃となる予定です。